

地理空間情報に関する北海道地区産学官懇談会
平成 28 年度 第 3 回情報共有会合議事概要

1. 日時：平成 28 年 9 月 20 日（火）15:00～16:15

2. 場所：札幌第 1 合同庁舎 10 階共用第 4 会議室

3. 出席者 26 名

北海道開発局、札幌管区气象台、第一管区海上保安本部海洋情報部、北海道地方環境事務所、北海道、札幌市（2 名）、北海道立総合研究機構（2 名）、日本測量協会北海道支部（2 名）、北海道測量設計業協会、建設コンサルタンツ協会北海道支部、北海道 GIS・GPS 研究会（2 名）、日本写真測量学会北海道支部、Digital 北海道研究会（2 名）、北海道高度情報化農業研究会、EnVision 環境保全事務所（2 名）、酪農学園大学、国土地理院（4 名）

4. 議事

- (1) 市民向け「石狩市防災ポータルサイト」のご紹介
- (2) 海洋情報のビジュアル化
- (3) Digital 北海道研究会のドローン（UAV）に関する取り組みのご報告
- (4) その他

5. 配付資料

- (1) 事務局
 - ・議事次第・出席者名簿
 - ・平成 28 年度第 2 回情報共有会合議事概要
- (2) 発表資料
 - ・市民向け「石狩市防災ポータルサイト」のご紹介（(株) ヒューネス）
 - ・海洋情報のビジュアル化（第一管区海上保安本部海洋情報部）
 - ・Digital 北海道研究会のドローン（UAV）に関する取り組みのご報告（Digital 北海道研究会）

6. 議事概要

今回の会合は、次の 3 課題の発表を行った。

- (1) (株) ヒューネスより、石狩市防災ポータルサイトの紹介が行われた。WebGIS での避難所の位置確認（現在地、方向、距離）について、多少遠くてもほかの避難所の選択、表示は可能かとの質問に対し、複数の候補がある場合には選択して案内の切り替えが可能であり、災害の種類（地震／水害）に応じて案内する避難所を切り替えており、また水害の場合は標高の高い場所を案内することなどが回答された。通行止めの箇所はリアルタイムに表示が可能かという質問には、WebGIS の機能を使えばできることが回答された。津波想定区域や土砂崩れの危険箇所などの表示ができるか等の質問には、津波の浸水想定は

北海道の見直しが終了すれば掲載予定であること、洪水の浸水想定区域もその後に入れる方向であることが回答された。

(2) 第一管区海上保安本部海洋情報部より、海洋台帳のビジュアル化に関する説明が行われた。海洋台帳を使用する際の引用に関する質問には、文中に海洋台帳を使用した旨を記載するとともに出力の際に自動で入るロゴを使用することで自由に使えるとの回答がされた。水温などの情報更新に関する質問には、現在リアルタイムの更新はできていないが、将来は AOV という自立型ブイのデータのリアルタイム表示が検討されているとの回答がされた。海洋台帳の掲載の範囲や情報入力に管区の担当かという質問には、EEZ 内の観測を行っている範囲を掲載しており、運用は本庁が行っているが、漁業権や海水浴場の変更が生じた場合は、管区から本庁へ連絡して更新がおこなわれるとの回答がされた。

(3) Digital 北海道研究会より、UAV に関する取り組みについて報告が行われた。札幌近郊での UAV を運用できる会社数に関する質問には、数社あるが会員企業では 3 社であるとの回答がされた。想定している UAV の練習場は冬期は除雪されるかという質問には、冬期も対応できるようにしたい（補足：農道飛行場は冬期閉鎖）との回答がされた。Digital 北海道研究会の UAV に関する活動の最終目標やロードマップに関する質問には、ロードマップはまだ確定していないが、UAV の操縦に関する認定ができるように認定機関と連携して調整していきたいとの回答がされた。練習会などの周知方法に関する質問については、今年度は会員企業限定の活動としたいとの回答がされた。

7. その他

日本写真測量学会北海道支部から「秋季特別講演会」、北海道 GIS・GPS 研究会から「防災・減災対策空間情報活用セミナー」、産学官 CIM・GIS 研究会から「第 10 回産学官 CIM・GIS セミナー」の案内がそれぞれ行われた。第 4 回情報共有会合は 12 月を予定。